

未来の「ふるさと彦根」を担うひこねっこのために

放課後児童クラブの充実

放課後児童クラブは、保護者が居間いない家庭の児童を対象に、遊びと生活の場を提供しています。入会希望者全員を受け入れるようにして、環境が整ったクラブから4・6年生の受け入れも行っていきます。

オリジナル防災副読本の作成

自らの命を守り、身近な人を助け、地域に貢献できる力をつけるため、防災教育副読本(参考図書)を作成し、市内の全児童・生徒が活用できるようにします。

副読本は、地域の災害史について振り返り、地震や台風など地域の災害の特徴をやさしく解説するなど、彦根ならではの内容で作成します。

モデル校へタブレットPC導入

授業の中でのICT(情報通信技術)活用を進めます。

特に、鳥居本中学校をモデル校に、タブレットPCを1人1台ずつ使える環境を整備し、実際の活用を通して、授業での効果的な利用方法を検討します。

ESD(持続発展教育)の推進

ユネスコが中心となって進めているESD(Education for Sustainable Development=持続発展教育)は、「持続可能な社会の担い手の育成をめざす教育です。」

自分の住んでいる学区の環境保全や、地域の活性化について考えたり、彦根の良さを多くの人に伝えることを考えたりしています。

現在、彦根市内にはESDの拠点となるユネスコスクール認定を4校(城西小学校、城北小学校、西中学校、中央中学校)が受けています。

■教育委員会の取り組み

彦根マイ☆賞

子どもが、家庭で行う自主的な学習の中から、よりよい取り組みを表彰しています。平成26年度は次の2つの部門で、それぞれ最優秀賞を選びました。

- ▼自主学習ノートの取り組み部門
- ▼継続した自主的な取り組み部門

使い方を工夫し、目標やその日の学習の感想をノートに書く取り組み

幼稚園の時からたくさん本の親しんできた取り組み



▶校区内に彦根城がある城西小学校の4年生が「うちっ子ガイド」の活動をしている様子。彦根城の自然や歴史の価値を学習したことを工夫してまとめ、観光客に案内しています。



▲彦根マイ☆賞授賞式

英語教育の充実

2020年には英語を教科とする計画があることから、小学校教員の英語指導力の向上に取り組みます。また、彦根市独自の英語教材を作成し、児童が英語に触れる機会を増やしています。



▲彦根市独自の英語教材(DVD)を使用した学習

確かな学力の育成に向けて

家庭学習の充実や生活習慣の確立、読書機会の充実などの取り組みは、学校と家庭の両方で取り組むことが大切です。

そこで、困教育委員会の取り組みと、家庭で取り組んでもらいたいことをまとめたリーフレットを市内小中学校の全保護者に配布しました。

「家読」のススメ



子どもが、意欲的に学習に取り組めるように声をかけてください。一緒に本を読む時間を作ることや、読み聞かせをすることも効果的です。学校図書館を積極的に利用するように伝えてください。

規則正しい生活を

スマートフォンなどの使い方のルールづくりや、家庭学習の取り組みを応援してください。



どんどん褒めて



学習でも、生活でも、できるようになったことをどんどん褒めてください。そのことが、子どもたちのやる気を高め、自分に対する自信につながります。

家庭で

温かい見守りを

子どもが彦根のまちで、健やかな毎日を過ごせるように見守ってください。



▲新入学の児童を見守る住民の皆さん

多くの大人が関わって

子どもが参加する地域活動の支援などで、多くの大人が子どもに関わることが大切です。



▲昨年行われた河川敷清掃の様子

強い彦根へ

私の思い
彦根市長 大久保貴

いじめによる自殺事件をきっかけに、教育委員会制度が厳しく問われ、その結果、同制度が改められることになりました。

彦根市では、この秋から新制度(※)へ移行する予定です。市長と教育委員会が協働して、しっかりとした形で彦根市の教育行政に責任を果たしていきます。

教育は「国家100年の大計」と言われる最も重要な事業です。ぜひ、改めて地域の教育を皆さんと共に考える1年にしたいと思います。

※教育委員会制度の新制度
教育委員会を執行機関とし、教育委員長と教育長を一本化して、新教育長職を設けます。
さらに、市長が開催する「総合教育会議」で、教育行政の基本を決定するほか、予算が必要となる教育条件の整備やいじめ自殺など、緊急時の対応も話し合います。

未来の「ふるさと彦根」を担う人づくり
ひこねっこの生きる力を育む!!

特集